

建設実現へ拠点開設

県、産学官の連携後押し



県は15日、北上山地（北上高地）での国際リニアコライダー（ILC）の建設実現に向け、産学官の関係者が利用する「岩手ILC連携室」を盛岡市北飯岡の県先端科学技術研究センター内に開設した。

千葉茂樹副知事と東北大・岩手大の吉岡正和客員教授が同連携室の前に看板を立て掛け、開設を祝った。千葉副知事は「県内のILC関係者の連携拠点として



岩手ILC連携室の看板を掛ける千葉茂樹副知事（右）と吉岡正和東北大・岩手大客員教授

スタートし、今後はILCプロジェクトの拠点へと進化させ、建設実現の一翼を担っていく」と先を見据えた。同連携室は、14日に東北

ILC推進協議会が設置した東北ILC準備室と連携して建設実現に取り組むための本県の拠点となる。30・5平方メートルで、会議用テーブルや作業用の事務机などを備える。

外国人研究者の受け入れ態勢の整備やILCに関する広報活動などを行うために関係者間の会議の場に利用。吉岡氏が週1回は訪れ、関係者とのミーティングや作業スペースとしても活用する。

吉岡氏は「東北ILC準備室の前線基地と捉えている。加速器の応用やILCという国際プロジェクトの推進、産業全体の技術革新、そして次世代の研究者や技術者の育成の拠点としていきたい」と強調した。